



アンネのバラ

吉高人権だより

2024年 3月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

「大切な自分を守る大人に」

電気電子科 田中 健介

しんどいこと、辛いことに立ち向かう、逃げない。ことはすごいことだし、素晴らしいことだとも思います。ただ、考えてほしいのは「逃げる」ことで怒られる・非難されるのは、人間だけということです。野生の動物は、負けるとわかったら本能で逃げます。しかし、人間は負けることをわかっていても、逃げるなどと言われることがあると思います。みなさんはどう考えますか？

勉強や部活動、補習などみなさんにとって、『しんどい・辛い』ことって学校生活でたくさんありますよね。でも、ここから「逃げ」てしまうと、真面目に頑張っている人たちから反感を買うかもしれないし、勉強から逃げたら学歴社会の中では生きてはいけなくなるかもしれない。という不安があるから、「逃げる」という選択肢を取らないのかもしれないですね。

では、野生動物などが危険でも、辛い状況でも「逃げない」時ってどういう場合でしょうか？きっとそれは、家族や大事な「誰かを守るため」であったり、「生命の危機」に関する場合のみではないでしょうか？でも、しんどいことや辛いこと、負けるかもしれない勝負や課題から「100%常に逃げない」「100%常に逃げる」という判断をして決めつける必要はありません。瞬時に適切な判断をすることが大切だと私は思います。

だから勘違いをしてほしくないのは、何からも「逃げていい」わけではないということ。判断し、行動する。その中で「逃げる」ことが、みなさんのための最善の手段であればそうすべきです。そしてそれは、誰かに非難されることでもないし、自分の身体や心、周りの人の安全につながることです。私も、あなたの周りにいる人たちも、みなさんの笑顔が一番大切です。そして、本当にみなさんが取り組むべきことにこそ、全てのことをかけて行動すればいいと思います。自分にとって本当に大切なこと、自分自身の成長のために必要だと思う課題と出会ったときにこそ、本気になりましょう。そんな出会いが今までもあったらうし、これからの人生にもきっとたくさんあります。

自分を大事にできて、自分の行動に自信を持ち、自分を誇れる大人を目指していきましょう。私も一緒に目指していきます。

【人権・同和教育ホームルーム活動】



去る2月16日（金）、1・2年生が3学期の人権・同和教育ホームルーム活動を行いました。1年生は、「人権問題を考えるⅢ」をテーマに同和問題を取り上げ、あるクラスでは日航ジャンボ機墜落事故を通じて同和問題について考えていました。2年生は、「人権の歴史Ⅲ」ということで、戦後の同和問題解消に向けての取り組みとして、教科書無償運動と識字学級を取り上げ、学習を深めました。生徒の感想を紹介します。

このような人権問題を学ぶことで、私たちが知らない時代に何が起こっていたのかを知ることができた。字を書けなくても差別や貧困がなくなるような生活を送っていけるようになって欲しいし、世界中に貧しい家庭でも勉強などができるようになってほしい。

周りの人にどのようなことを言われても、自分たちの想いをしっかり持ってそれを貫き通すことの大切さや大変さを学んだ。そして、同じ思いを持つ味方の存在の大切さを学ぶことができた。

まず正しい知識を持つ必要があると思いました。間違った知識では周りに流され、差別をしてしまう可能性があると思います。今回の授業のように学校などで学んで、人権に関する知識をつけていきたいと思いました。そして、一人一人が差別しないことを意識し、差別している人がいたら間違っているよと伝えられるようになりたいです。

文字の読み書きができるのは当たり前だと思っていたが、そうではなかった人もいたと知り、読み書きできることを大切にしようと思った。学校に通う、教科書が無料であるのは、多くの人のおかげであり有難いことだと思った。

まだまだ差別は消えていない現実はあるかもしれないが、自分「たち」の力で、頑張ればゆっくりとなくすことができるのではないかと思う。